

2010年度 第2回日本語教育巡回研修会
2010.8.24-26

自律学習能力の育成を図る教室活動

—モニタリングと自己評価の基準確立を目指して—

ワークショップ3

衣川隆生
(名古屋大学留学生センター)

応用例の紹介

- 「いい説明文とは＝説明文の評価基準」
- 「いい説明文」は、どんな構成なのか、それぞれの段落には、どんな情報をどんな順番で書くのか、どんな言葉を使えばいいのかなどを、わかりやすく説明してください。
- 読み手：説明文が上手に書けないクラスメート・後輩

一回の作文の流れ

- 「準備段階」
- 「初稿提出(宿題)」
- 「自己評価・ピアフィードバック」
- 「第二・三稿提出推敲」

メモの例

- 一番目のポイントは説明文を書く前に読み手は誰なのかを必ず考えなければならない。なぜなら、読み手側によって理解力が異なり、読み手に応じて理解力の程度を合わせなければならないからだ。例えば、読み手が小学生ならば、小学生に合わせたあまり難しくない表現を用いて記載すべきだ。しかし、言葉の難易度だけではなく、もし対象が小学生ならば優しく、話しかけるように書かなければならない。その時、「ます」、「です」のフォームを使ったり、イラストで表現することもよいと思う。次いで、……

課題2 自己評価

- 抜き出しが終わったら、メモの項目を「評価基準」にして、自分の作文を評価してみてください。
- 例)文は短く =>長い文がある =>△
- 「内省」「評価A」に以下のように評価してください。
 - 「よくできている＝◎」
 - 「できている＝○」
 - 「あまりできていない＝△」
 - 「できていない＝×」

課題3 反映モニタリング

- 課題作文で説明している通りに文章を書いているかどうかを振り返ってください。
- メモが取りやすいかどうかという観点からも自分の文章を振り返ってください。
- 振り返りの結果に基づいて、自分の文章の評価できる点、修正すべき課題を「内省1」「コメント1」に記入してください。

モニタリング・自己評価の事例

- 自分の作文の弱点を見つけました。キーワードがないことまた文章の最初の部分はこの文章をなんについて書く、どういう順番で書くがはっきり書いていないです。

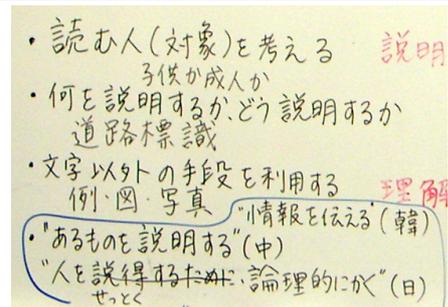
自己評価・ピアフィードバック

- 自身の作文から「説明文の評価基準」を抽出
- 評価表作成
- 自己評価・ピアフィードバック
 - ◆ それぞれの文章で訂正すべき点
 - ◆ 参考にすべき点も抽出する
- →反映モニタリング
- 一回の提出時まででどう推敲すればいいか
 - ◆ →「目標」設定

実践を通して出てきた課題

- 「説明文」の構成概念定義の不明確さ
- 「説明文とはあるテーマについて人を説得するために論理的に書かれた文章である」
- →文章に関する基準が適切な形で内在化されていないのでは？

「説明文とは」の話し合い



いい説明文についてML

- 質問:
 - ◆ 「いい説明文」とは何ですか。「説明文」の目的を達成するということは、どういうことですか。
 - ◆ 自分でもう一度、「説明文」の定義を考え、それに基づいた「いい説明文とは...である」という答えを考えてください。

ML上のディスカッション

- それぞれの人の理解力が違いますので同じ説明文はそれぞれの人に役に立たない可能性があるかもしれません。だから先週の授業に言ったように説明文を書く前に「誰が読み手か」という質問に答えなければなりません。
- ##### 先生からのコメント #####
- 「誰が読み手か」という質問に答えて、その答えがわかったら、次にどんなことに気をつければいいですか。読み手が変われば、何がかわるのでしょうか。

授業での協働作文 質問1

- 1)あなたは、日本語のニュースを見ている。一つは、日本の株式市場のニュース、もう一つはあなたの国で起こった事故のニュースです。
- 2)1)あなたはどちらのニュースのほうが理解しやすいと思いますか。理解度が違う原因を考えてみてください。
- 3)この質問から、説明文の理解度を高くするためには、何に注意する必要がありますか。隣の人と相談して、後で発表してください。

質問1の答え

- 1. ベーシックな知識が違う
 - ◆ 専門的な背景知識が違う
 - ◆ 文化的な理解度(何か受け取ることが違う)
 - ◆ その国の事情の詳しさ
- 2. 興味が違う
- 3. 愛情があるかどうか
- 4. 利益があるかどうか

質問2

- なぜ、「読み手」を考えることが重要なのでしょうか。
- 説明文が上手に書けない小学生、高校生、大学生に「いい説明文とは＝説明文の評価基準」を書くときを考えてみてください。

質問2の答え

- 文法一言葉一文法
- 例えば;小学生に対しての説明文に、手段を簡単に短い文章でせつめい
- 大学生の場合に、説明が簡単すぎればつまらないので、もっと面白く書けばいい
- 知識も年齢によって違うから、小学生の場合に、基礎知識の説明が大学生の場合より必要だ
- 小学生には話しかけるような書き方、
- 大学生には普通的方式でいい

質問3

- 実際のどのようになるところか、なぜ、そのように変えた方が「わかりやすい」のか、検証しながら具体例を考えてみてください。
- OSはパソコンを動かすためには必要なプログラムである。
- 人は体と脳がありますね。脳がなければ体を動かすのができません。このようにパソコンも人の脳のようにOSというのが必要です。
- 違い:難しい言葉をやさしく表現した。

第2校

- 一番目のポイントは説明文を書く前に読み手は誰なのかを必ず考えなければならない。
- なぜなら、読み手側によって理解力が異なり、読み手に応じて理解力の程度を合わせなければならないからだ。
- 例えば、読み手が小学生ならば、小学生に合わせたあまり難しくない表現を用いて記載すべきだ。しかし、言葉の難易度だけではなく、もし対象が小学生ならば優しく、話しかけるように書かなければならない。その時、「まず」、「です」のフォームを使ったり、イラストで表現することもよいと思う。(略)

結果 認識の変化

- 一番勉強になったことは読み手のことを考えることである。具体的に言えば「文章の読み手はどんな人だろう」、「文章を通じて読み手が何を期待しているか」、「どうやって読み手に理解してもらおう」と自分を読み手にし、考えながら文章を書くことである。

認識の変化

- 自分の作文の弱点を見つけました。キーワードがないことまた文章の最初の部分はこの文章をなんについて書く、どういう順番で書くがはっきり書いていないです。それを頭に考えながらメモをしました。そのメモを見直し後で書くと文章が見やすくなる。これから、**私はずっとその方式で文章を書く**と思います。

参考文献

- 衣川隆生(2009)「メタ認知知識の外言化がもたらすもの—モニタリングの基準の意識化と内在化を目指して—」『日本語教育の過去・現在・未来 第3巻 教室(小林ミナ・衣川隆生(編著)水谷修(監))』凡人社, p.69-93.